

# 令和元年 第1回 リハビリ部会研修レポート

記載者：介護老人保健施設ケアホーム山口 理学療法士 木村亮祐

〈日時〉 令和元年 8月4日（日） 10：00～15：30

〈会場〉 山口セミナーパーク 研修室 201

〈テーマ〉 総合事業について

〈内容〉

講師：佐藤大地先生（大分県九重町 介護老人保健施設 ケアポート溪和 理学療法士）

10：00～12：00 数年後の日本、これからの介護保険分野の事業について

13：00～15：30 グループワーク（症例検討）、九重町での取り組みなど

大分県の九重町で総合事業に携わっている佐藤大地先生に、これからの日本の地域包括ケアシステムの重要性、専門職種としてどう介護予防に関わっていくべきか、大分県九重町での介護予防への取り組みなどを教えていただいた。佐藤先生は地方での少子高齢化と現状の社会保険制度の今後の不安、介護予防の大切さ、理学療法士としての関わり方などを話された。適切なアセスメント能力、マネジメント能力を身につけることで利用者を自分たちが理解する、また利用者自身も自分自身を理解することができる。それにより適切な目標を立てることができ、利用者自身も運動することへの意識を高めることができ、介護予防につながると佐藤先生は話す。またその際は地域の医療機関と連携が不可欠であること、介護保険利用者一人一人に介護保険を使用する自覚を持っていただき、いずれは介護保険を利用せずに生活を送ることができることを目標できるように関わることも大切だと話される。数年前よりケアポート溪和では行政からの委託により総合事業をスタートし、訪問型・通所型サービスCを開始。利用者は相談窓口からの紹介や基本チェックリストの内容を元に地域ケア会議にて選定。週1回程度の利用で、立位での上下肢の運動や段差昇降運動を中心に運動を実施し、その他、介護予防や健康増進に向けた講話も実施している。また通所サービスからの「卒業」を重要視されており、定期的にカンファレンス（事前・初回・中間・最終）を行い、中間カンファレンスでは卒業の判定、最終カンファレンスでは事例の振り返りや卒業後の受け皿の確認を行っている。特に卒業後の受け皿の用意は卒業における最も重要なことであると佐藤先生は話される。これらの取り組みにより九重町だけで年間約1億円の介護保険料を削減することができた。



午後からはグループワークを行い、実際の症例から自立した生活への障害要因や課題に対する支援内容、医療と連携すべき項目、達成可能な目標などをグループで検討し発表を行った。様々な視点からの利用者様との関わりなど多くの意見が挙がった。

自分たちが働く通所サービスでは「卒業」という言葉はなかなか聞かれない。特に生活における目標を持たずに交流の場として利用される方もいらっしゃる。理学療法士として利用者のためという点は忘れてはならないが、自分たちの未来を守るためにも、利用者自身が安心して過ごせる地域づくりに関わっていけたらと思う。

自分たちが働く通所サービスでは「卒業」という言葉はなかなか聞かれない。特に生活における目標を持たずに交流の場として利用される方もいらっしゃる。理学療法士として利用者のためという点は忘れてはならないが、自分たちの未来を守るためにも、利用者自身が安心して過ごせる地域づくりに関わっていけたらと思う。

